



学校だより

青い鳥

平成28年度7月号
さいたま市立上落合小学校
平成28年7月1日作成さいたま市中央区上落合4-14-24 TEL 852-5381
<http://kamiochiai-e.saitama-city.ed.jp/> E-mail:kamiochiai-e@saitama-city.ed.jp

夏の終わりに

校長 藤澤 太郎

タチアオイの花が早々にてっぺんまで咲いてしまいました。まだまだ梅雨空が続きますが、そのすぐ傍らでは、向日葵が「次は僕の番だ！」と待ち構えている姿がとても凛々しく印象的です。

みなさんは、この夏に何か具体的な夢や計画をもっていますか？学校では先生方が、「健康で規則正しい生活を！」と呼びかけ、学習面では、宿題を出したり計画表を作ったりして、児童がこの長い夏休みをきちんと過ごすことができるよう働きかけをしています。

さて、子どもにとっては「夏休み」なのですが、夏休みは学生だけのものではないと思っています。つまり、子どもが夏休みに入ると、その家の家族みんなが「夏休み」になると考えているからです。変な言い方ですが、例えば、お父さんにしてみれば、普段家に帰って見る子どもの顔と、夏休みで、同じように家に帰って見る子どもの顔は、感覚的にかなり違って感じるのではないかと思います。

僕の小学校時代の夏休みはこんなでした。当時は、杉並区の小学校に通っていました。母の実家が信州でしたので、3年生の夏休みは、そこに里帰りというか遊びがてらお世話になりました。母の田舎は、僕からするとそれはそれは山奥のイメージで、まずびっくりしたのは夜が暗いことです。東京の中央線の脇で暮らしていた僕としては、本当の夜の暗さがそこにあった訳です。この他にも、山にカニがいるとか、ウルシはかぶれるとか、広葉樹のヤドリギとか、小川に岩魚がいるとか、アブは刺されると痛いとか、犬はともだちとか…「なんだこれは！」の連続で、これが連日続くものですから、すっかり田舎好きという山遊び好きになってしまいました。また、山奥とは言ってもご近所の同年代の小学生とも仲良くなって、お盆過ぎに東京に帰るときには心底「ここに留まりたい」と子ども心に思っていたと記憶しています。

山遊びの楽しさは、また別の機会にするとして、この時、僕が田舎に行っている時に東京の僕以外の家族がどうしていたか？というのが今回の本題です。後で聞いた話ですが、この時は上の姉と両親は羽をのばして…ではなく、結構「心配」をしていたという話をしておりました。ところが、なぜ心配したかということ、父も姉もその田舎を知っていたため、しっかり山の楽しさを味わえたか？という心配で、大人になってからこれを知った時には、少し複雑な気分になりました。「行ったからには楽しんで来い！」というのは結構乱暴な言い方であり考え方ともとれますが、それこそ「夏休み」のことであり、今から何十年も前の話ですからまあ良しとしますか。さらに、その時に家族の「心配」は、表向き。心の奥で思っていたのは、「実は自分も帰省したかった」ということのようにです。やれやれ、やはり「夏休み」なのですね。そして、夏休みの後半はどうだったかということ、皆さんのご想像の通りです。楽しみは先に、そして宿題の山は後からやってくるということです。充実した夏であればあるほど、「さびしいな」とは、きっと大人も子どもも夏の終わりに感じるのだと思います。今ではこの気持ちがなんとなく心地よいと思うようになってきています。

しばらくすると夏休みに入ります。毎年のお願いになりますが、健康や安全に留意してのびのびと過ごしてほしいと思います。また、子どもたちには、家庭でのお手伝いを進んで行うなど、家族との時間を大切に過ごしてほしいと思います。それぞれに、充実した夏休みを過ごしてほしいと願っています。この夏の終わりに、皆さんは、どんな思いを抱くのでしょうか。

学校教育目標

あかるく

なかよく

たくましく